

「花の百名山」 田中澄江 著 文春文庫

著者 田中澄江 1908年（明41年）～2000年（昭12年没 91歳）

「花の百名山」は「山と溪谷」に1977年から3年にわたり連載された随筆をまとめた作品である。

東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）卒業後、聖心女子学院で教鞭をとった。退職後は田中千禾夫（劇作家）と結婚し本格的に執筆活動を開始した。映画やテレビの脚本、随筆、小説は100を越え、夫である田中千禾夫との共著等、数多く執筆しているが、また登山をこよなく愛し、低山を含め800以上もの山に登ってきたという。

特に野の花や高山植物が好きで山に登る目的はそれらの花々に会うためであった。田中澄江が6歳の時に40歳の若さで亡くなった父親が、若いころに登った山や植物について折に触れて話してくれたことが、山や花に強くあこがれる原点になった。

著作活動をし、家庭生活を営む中で、山に登り続けたのは、早逝した父への思慕の念と清々しい緑や水や空気に触れる喜び、動物に出会う楽しさであり、この地上が人間ばかりのものではないと実感したことだという。

奥多摩の高水山にちなんで女性登山グループ、高水会を主宰し、20人から多い時で60人位のグループで登り、着物姿で登り、多少の熱があっても登りと無茶ともいえる登山を実行して、山が私（田中澄江）を元気にしてくれると喜んでいる。

そうして登った山々は北海道から九州にまで及んでいる。

深田久弥の「日本百名山」が登山愛好家のバイブルとなっているが、深田久弥は百名山を山の品格、山の歴史、山の個性、山の高さ1500メートル以上という基準を設けて個人の好みではなく客観的に選んだと言っている。

それに対し田中澄江の百名山は何とんでも花が好きということで選んでいるので、異なる選択となっているが、文中に出てくる花は800種以上と驚くほど多い。

特に好きな山はと聞かれ、黒部五郎岳（富山県）、好きな花はナデシコと答えている。

山それぞれにまつわる歴史や古典文学などを織り込みながら深くて豊かな物語を展開し、山に疎い人にも興味深く読むことができる。

河田慶子

